
わかっていても

雲天道凪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
わかつていても

【NZコード】
N1747K

【作者名】
雲天道凪

【あらすじ】

主人公の凪は一目惚れした拓実にストーカー行為を行っていた。
どんな拓実の行動も凪には+に思え困る拓実だつたが・・・
実際の凪の心情は・・・

(前書き)

はつかり言つと自分てきに失敗作です

あたしの愛は本物よ。

あたしは彼を愛しているんだから。

あたしがこんなにも人を愛したのはこれが初めて。
だから彼は運命の人だ・・・

『拓実さん！拓実さん！今日も素敵な拓実さん！』
今日もあたしは彼に会いに彼の高校へと迎えに行つた。

拓実さんの学校は男子校で、あたしはその近くにある女子高に通つている。

合同文化祭のときにはあたしは彼に一日惚れした。

『また来たのかよお前・・・俺に付きまとくな！このストーカー女が』

『ストーカーって誰のことですか？怖いですよね。ストーカーなんて・・・そんな人がいたらあたしが殺してあげますよ！』

あたしがそういうと彼はめんどくさそうに早歩きをしながら

『じゃあ今すぐ学校の屋上行つて身投げしてこー』
と言つた。

『キヤー！それを拓実さんが受け止めてくれるんですよね？嬉しいな～』

『そのまま落とす』

彼の冷たい言葉もあたしにとつては・・・

『キヤー！拓実さんってツンデレですね～。カッコいい！…あたし痺れちゃいます～』

『ならそのまま動けなくなれ』

『や～』

『おっ、拓実と…・・凪ちゃん
この人は拓実さんの友達の和さん。』

何でかこの人はあたしと喋るときに遠慮をしている気がする。

『こんにちわ～』

『おう。丁度良かつたぜーカラオケの約束してたんだよな
『えっ、あ・・・ああ』

拓実さんは何処か急いだ様子であたしから離れて和さんの元へ行つた。

『ならあたしも行きます…』

『お前はダメだ！』

『どうしてですか？』

あたしはキヨトンとした表情で尋ねた。
すると返ってきた答えは…・・

『いや、お前みたいな可愛い女を平田の夜遅くまで一緒におりすわけには行かないだろ？』

『拓実さん！拓実さんがそんなにもあたしのことを大切に思つてくれたなんて、あたし感激です！』

あたしははしゃぎながら拓実さん達を笑顔で見送つた。

そして自分は家路を歩いた…・・

ああ、あたしはこんなにも貴方のこと愛してこるので、どうして貴方はその愛に気づいてくれないの？

どうして？

あたしの愛がたりないの？

あたしの愛が通じないの？

そんなことはあたしに、自分で言い聞かせるいいわけだ。

本当はわかっている。

拓実さんがあたしのことを嫌つてはいるとも、あたしの行動に気持ち悪がつてることも・・・。
だけど嫌われても、どう思われても・・・あたしは貴方のことを諦めることが出来ないの。

ねえ、どうすればいいの？

あたしは一体どうすればいいの？

拓実さん・・・どうかあたしの思いをどうにかして。

あたしのこと好きになるのか。

完璧に嫌つて・・・

でないとあたし、これ以上貴方のことを好きになつたら、これ以上

貴方に片思いを続けたら可笑しくなる気がするの・・・

わかってる。

そんなことは、貴方と出合つたときから

そう何もかもわかつっていたの・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1747k/>

わかっていても

2010年12月10日17時43分発行